



「雪山童子」の物語は、涅槃経ねはんきょうという御経の  
に説かれていられるお話で、お釈迦さまが  
過去世で仏道修行されていた時の姿として、  
とても有名なお話です。

そのお話の中で、人々が幸せになれる正  
しい教えを求めらる者は、どんなことがあつて  
も、命を惜おしまわずに求めていかなければなら  
ない事を教えていますが、雪山童子が命を惜  
しまず、鬼に命を投げ出して求めようとし  
た教えというのは、

「この世の一切は、生じては消えていくの  
であり、はかないものであるが、この生じ  
たり消えたりするものを超えた、正しい教  
えを得るならば、真実の幸せになることが  
できる」

というものでした。

ここに説かれる「正しい教え」とは、日蓮  
大聖人様がお示し下された、南無妙法蓮華経  
の教え、御本尊様の事です。

この雪山童子の話をよく聞いて、私達も雪  
山童子に負けないぐらい、一生懸命に信心に  
励んでいきましょう。では始めます。



昔むかしむかし々のことことです。雪山せつせんという山やまの中で、

一人ひとりの若者わかしが、修行しゆぎんに励はげんでいました。

この若者わかしは、雪山せつせんで修行しゆぎんしていたので、

雪山童子せつせんどうじと呼ばれるようになりました。

雪山童子せつせんどうじは、みんなが幸せになる教しよえが知

りたくて、毎日毎日、昼も夜も決なめて怠なまける

ことなく、修行しゆぎんを続つけていました。



「ぼくは、みんなが幸せになることのでき

る教えを、きつと見つけてみせる！」

雪山童子が大きな声で叫ぶと、森に住んで

いる動物たちが集まってきました。

「しつかり！」

「がんばれ！」

動物たちもそう言って、みんなで応援して

いました。



仏法ぶつぽうを守護しゆごする、諸天善神しよてんぜんじんの一人、

帝釈天たいしゃくてんがこれを見ていました。

そして

「雪山童子はいつも一生懸命いっしょうけんめいに修行をしてい

るなあ。でも、この熱心ねっしんさは、いつまでも続

かないだろう」

「この志こころざしが本物かどうか、一つ試ためしてやろ

うじやないか！」

と、思いました。

そこで帝釈天は、パツと姿を変えました。



とつても恐ろしい姿をした、鬼に変わりました。

帝釈天は、みんなから恐れられる、鬼の姿をして、雪山童子がこの恐ろしい鬼の姿を見て、修行をやめて逃げ出してしまうか、ためそうと思ったのです。

そして、

「諸行無常 しよぎょうむじょう 是生滅法 ぜしやうめつぽう」

この世の一切は、生じては消えていくのである。はかないものである。

と、仏様の教えを説きました。



雪山童子の耳に、今までに聞いたことがない、何ともいえない力強い言葉が、聞こえてきました。

「ああ、この教えだ、長い間探し求<sup>もと</sup>めていたものは、これだ。」

その教えの素晴<sup>すば</sup>らしさが、雪山童子にはすぐに解<sup>わか</sup>りました。

飛<sup>と</sup>び上<sup>あ</sup>がって喜び、だれの声だろうとまわりを探<sup>さが</sup>すと、そこには、恐<sup>おそ</sup>ろしい姿<sup>すがた</sup>形<sup>かたち</sup>をしたら、鬼が立っていました。



鬼を見て、雪山童子はゾツと、恐ろしさを  
感じました。

しかし、

「さつきの教えには必ず続きがあるはず」

と、素晴らしい教えを知りたい気持ちの方が、  
もつともつと強くわき上がってきました。

そして

「どうか、続きを教えてください」

と、鬼に近づいていきました。

すると鬼は、

「おれは、はらがへっているから、あとはも

う言うことができない」

と、答えました。



## 雪山童子が

「それでは、私が食べ物を見つけてきますから、さつきの続きを教えてください」

と言うと、鬼は、

「おれは普通のものは食べない。おれが食べたいのは、とつても生きのいい、生きている

人間の肉だ。そうだ、お前の体をわしに食べさせてくれたら、考えてもいいがのおく」

と、恐ろしいことを言い出しました。しかし、こんな言葉を聞いても、雪山童子の、教えの続きを聞きたいという気持ちは、少しも変わることはありませんでした。





何としても続きが聞きたい雪山童子は、

「それでは、ぼくの体を差し上げますから、

是非<sup>ぜひ</sup>続きを教えてください」

と、鬼の前に座<sup>すわ</sup>り込み、それこそ命がけでお

願いしました。

さすがの鬼も、これにはビックリしました

が、雪山童子の真剣さに、

「消滅<sup>しょうめつめつち</sup>滅已 寂滅<sup>じやくめつらいらく</sup>為楽」生じたり消えたりす

るものを超えた、正しい教えを得るならば、

本当の幸せになることができる。

という、続きの半分を教えてくださいました。

雪山童子は、この素晴らしい教えを聞くこ

とができ、体<sup>からだ</sup>中<sup>だいちゆう</sup>が震<sup>ふる</sup>えるほど喜びました。



「ありがとうございました」

「ありがとうございました」

雪山童子は、何度も何度も、心の底から鬼に

お礼を言いました。

そして、約束通り、自分の体を鬼に差し上

げてしまえば、そのあと、又だれもこの教え

を知ることができなくなるので、急いで、石

や木の幹みきや、道など、ありとあらゆる所に、

今教おそわったばかりの尊とうとい教えを書き残しま

した。



やっと望<sup>のぞ</sup>みの叶<sup>かな</sup>った雪山童子は、うれしく  
つてたまりません。

まるで、サルのように、スルスルツと高い  
木に登<sup>のぼ</sup>っていきました。

そして

「鬼さん、おかげでぼくは幸せでいっぱい  
す。約束通りぼくを食べて下さい」

と、勢<sup>いきお</sup>いよく、鬼の方へ飛び降りました。



しかし、一体どうしたことでしょう。

飛び降りた雪山童子は、大きな大きな温あたた

かい手で、しっかりと抱きかかえられました。

「尊い教えを知るために、自分の命さえも惜お

しまないあなたは、何と立派な人でしょう。

そういう方を、どうせ長くは続かないだろう

と、試ためしたりして、どうかお許ゆるし下さい」

鬼から本当の姿に戻った帝釈天たいしやくてんは、雪山童子

をしつかりと抱きかかえ、心からお詫わびを言

いました。



このお話の雪山童子とは、お釈迦さまが、  
過去世に仏道修行していた時のお姿です。  
そして、正しい教え、最高の素晴らしい教  
えは、皆さんが毎日唱えている南無妙法蓮華  
経の教えです。

このお話のように、信心修行を一生懸命に  
していくと、試されたり、妨げられたり、  
邪魔をする働きが必ず顕われます。

そんなとき、私達も雪山童子に負けないぐ  
らい、どんな事があっても命がけで御本尊様  
を求めていきましよう。

そのためには、いつも、朝晩の勤行と唱題  
をしつかりする。お山へ御登山をさせていた  
だく。お寺に参詣する。そして、困っている  
友達がいたら助けてあげる。信心の話をして  
あげる。そんな人になれるように、毎日信心  
に頑張っていましよう。

当然、挨拶をきちんとする。お父さんお母  
さんの言う事を聞く。しつかり勉強をする。  
ということも大事ですよ。

皆さん解りましたか？以上で終わります。